


平成31年度 都立学校・学校経営シート

校章		<b>都立園芸高等学校</b> 全日制課程		進路実績 特徴	四年制大学	23%	短期大学	4%	専門学校	42%	就職	20%	その他	11%
		百年の森で学ぶ「緑と食と命の学園」 -Make the next century-			資格取得(農業技術検定・造園技能士)、技能五輪大会(造園)5年連続出場 盆裁部(徳川家光遺愛の松の管理)、バラ園プロジェクト、三宅島緑化プロジェクト、女子バスケット、女子バレー、硬式テニス、軟式テニスなど									
基	所在地	〒158-8566 世田谷区深沢五丁目38番1号		電話番号	03-3705-2154									
		アクセス			(1) 東急大井町線等々力駅より徒歩15分 (2) 東急田園都市線桜新町駅より徒歩18分 (3) JR渋谷駅より東急バス等々力駅行きで40分園芸高校前下車3分									
本	学 科	農業科(園芸科、食品科、動物科)												
		在 籍 数	417名(男子132名、女子285名)											
情	教育課程の特徴		体験型専門実習、習熟度別授業(国・数・英)、朝学習(週5日)、課題研究											
		報	ホームページ	<a href="http://www.engei-h.metro.tokyo.jp/">http://www.engei-h.metro.tokyo.jp/</a>		自律経営推進予算 31年度(単位:万円)	3,660							
そ の 他	緑豊かで広い校地(260㎡/人)			校 服	制服		男子:ブレザー(灰)、ネクタイ 女子:ブレザー(灰)、リボン							
	基	入 学 者 選 抜 情 報	募集人員			推薦:園芸21名・食品10名・動物10名、一般:園芸49名・食品25名・動物25名								
本				29年度入学生	推薦	園芸	2.19	30年度入学生	推薦	園芸	1.81	31年度入学生	推薦	園芸
	食品	3.10	食品			2.6	食品			3.50				
情	報	学 力 検 査	動物	6.09	学 力 検 査	動物	4.6	動物	6.20	動物	3.27			
			計	3.56		計	2.68		計		3.27			
報	そ の 特 徴	推薦・一般とも男女を問わず												
		主 要 学 校 行 事	園芸展(文化祭)、体育祭、下田農場宿泊実習、課題研究発表会											

目指す学校 我が国最初の園芸学校として「勤勉 勤労」の校是のもと、「名実ともに日本を代表する農業の専門高校」を目指す。

今年度の重点目標		今年度の取組と自己評価	
目 標 ①	◆生徒の学力向上 (学校テーマ:生徒に力(学力の3要素)をつけさせるよう「授業を磨く」) 校是「勤勉・勤労」を学習指導全体を通して体得させる。 ①基盤学力としての教育を充実させ、学んだことをアウトプットする。 ②朝学習や講習を通して学習意欲の向上と定着を図る。 ③「ユニバーサルデザイン」と「アクティブラーニング」を教員研修のテーマとして各自の授業を磨く。	校是「勤勉勤労」を基に教育課程改善を進めている。この方針に従い 登校時間を15分早め、全校での朝学習を開始し6年が終了し学校全体の遅刻者が減少した(1日当たり0.89人)。生活態度、授業態度も落ち着きが出て、学力も向上した。「コツコツ勉強する」教育課程が完成。多くの生徒が早く登校して学習に励んでいる。時間管理能力を育成するために全校生徒に手帳(スコア手帳)を持たせた。生徒の自己管理能力の一層の育成が課題である。ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業では、板書字の大きさ、色、位置などに配慮した。次年度も継続して展開する。	
目 標 ②	◆専門教育 (個々の能力を最大限に伸ばす) ①「基盤学力」の上に「専門の力」を育成する。地域(世田谷、産業界)と連携し、地域資源や人材を特別活動や授業の中に取り入れ、生徒を育てる。 ②「技能スタンダード」を充実させ専門教育の質を担保する。 ③「農業技術検定」を受験させ、受験学習を通して専門の質を担保する。	類型ごとの少人数学習、市民講師等による専門指導の強化を図った。技能五輪(造園大会)は今年で出場8年目を迎えた。他にも造園技能士2級5名、3級14名、調理師7名、製菓衛生師1名、愛玩動物飼養管理士2級26名合格など成果を出した。「都立専門高校技能スタンダード」をベースに自校の「技能スタンダード」を展開した。28年度より全員受験とした「日本農業技術検定3級」では、116名の生徒が合格し、合格率90%となった。さらに農業大学卒業レベルの2級では9名の合格者を出した。	
目 標 ③	◆進路指導の充実 (社会の変化に対応できる力を高める) ①就職・進学ともに本校の専門に関連した進路先を開拓し、卒業予定者の進路決定率を100%とする。 ②進学希望者の増加に対応した組織的指導を行い、大学・短大進学者数を30%以上とする。	キャリア教育の視点から進路指導を強化した。就職を希望している者は年明けも求職活動を行い100%就職できた。さらに教員による職場訪問も安定し、企業理解が深化した。 大学進学者は23.7%と昨年度(27.2%)より減少した。農業系大学進学者も15名と昨年度と同数だったが、国立大学への進学者を出すことができた。今年度は就職を希望する生徒たちが増加する傾向があった。専門科目の学習を通して知識や技術を活かした農業関連企業への就職が増加した。	

数 値 目 標	今年度の数値目標の内容	28年度		29年度		30年度		今年度		32年度	33年度	34年度
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	目標	目標
目標①	生徒の学校定着【勤勉勤労を堅持しつつ、退学者(人)を減少させる】	○人	5	2	5	2	5	3	5	3	5	5
目標②	生徒の安定生活【問題行動発生件数(件)を減少させる】	○件	3	3	3	2	3	2	3	1	3	3
目標③	生徒の進学実現【国立大学を含む大学・短大進学率(%)を向上させる】	○%	30	44	30	37	30	27	30	24	30	30

